

## サイコパシーの他者操作方略：愛着スタイルと共感性の影響の検討

その他のタイトル	A Research about Psychopath's Manipulation Strategies : Investigation of the Effect about Attachment Styles and Empathy
著者	黄 夢荷, 串崎 真志
雑誌名	関西大学心理学研究
巻	12
ページ	1-5
発行年	2021-03
URL	<a href="http://doi.org/10.32286/00022969">http://doi.org/10.32286/00022969</a>

# サイコパシーの他者操作方略

## — 愛着スタイルと共感性の影響の検討 —

黄 夢 荷 関西大学大学院心理学研究科  
串 崎 真 志 関西大学文学部

### A Research about Psychopath's Manipulation Strategies —Investigation of the Effect about Attachment Styles and Empathy—

Menghe HUANG (Graduate School of Psychology, Kansai University)  
Masashi KUSHIZAKI (Faculty of Letters, Kansai University)

This study examined the relationship between psychopathy and manipulation strategy, from the viewpoint of the influence of attachment style and empathy. Psychopathy is a personality disorder that includes antisocial traits and behaviors (Hare & Neumann, 2009) and is characterized by the manipulation of others. In previous studies, all manipulation strategies were positively correlated with psychopathy (Shigeru & Oshio, 2019). After collected 319 questionnaires data in China, the results showed a positive correlation between psychopathic tendencies, ECR avoidance, and ECR anxiety. The results of path analysis also revealed that higher self-directed responses of psychopathic tendencies lead to higher all other manipulation strategies, and the higher the ECR avoidance, the more self-directed manipulation.

**Keywords:** psychopathy, manipulation strategy, attachment style, empathy

## 問 題

サイコパシーは、反社会的な特性と行動を含むパーソナリティ障害であり、誇大的、自己中心的、欺瞞的で、浅薄な情動、共感あるいは後悔の欠如、そして無責任、衝動的、社会的規範を侵害する傾向をもつと定義されている (Hare & Neumann, 2009)。また、サイコパシー傾向とマキャベリズムとナルシシズムは、互いに正の関連を示すので、それらをまとめて、Dark Triadと呼ぶこともある (Paulhus & Williams, 2002)。

サイコパシーの特徴の一つが、他者操作である。操作 (manipulation) は、「加害者が、快樂原則に従って、加害者に満足を与えるために、抵抗性のある

対象を操作しようとする事」であり、「操作者の本当の動機はやや隠されている」という (Clair, 1966)。そのなかでも、他者操作方略は日本でよく研究されており、「利己的で高圧的に他者をコントロールして自己の利益を得ようとする方略」と「他者からのケアを引き出そうとする方略」という2側面を含んでいる (寺島・小玉, 2004)。それを踏まえて、他者操作方略尺度は自己優越的感情操作、自己優越的行動操作、自己卑下の感情操作、自己卑下の行動操作という4つの因子で構成されている (寺島・小玉, 2004)。他者操作方略のすべての下位尺度は、サイコパシー傾向と正の相関がある (下司・小塩, 2019)。黄 (未発表) においても、同様の結果が再現され、サイコパシー傾向が高いほど優越的操作を行うこと

が明らかになっている。

ところで、サイコパスが他者を操作する理由については、2つの仮説がある。一つは、共感性の低さである。サイコパス傾向は定義上、冷淡で、共感性が低いことが指摘されている(下司・小塩, 2019)。そして、サイコパス傾向は、認知的共感にも情動的共感にも有意な負の相関を示し、その相関係数は情動的共感のほうが大きいことが報告されている(Jonason & Krause, 2013)。

もう一つは、愛着が不安定なことである。例えば、イタリアの囚人を対象に、サイコパス傾向と親密な絆(attachment bonds)を検討した研究では、サイコパス傾向が高いほど、無秩序型の愛着(disorganized attachment)経験が多かった(Schimmenti et al., 2014)。また、木川(2016)は、卑下的な操作方略は、特定の他者、特に親密性が高い他者に向けられると考察している。

そこで本研究では、サイコパスが他者を操作するメカニズムとして、共感性と愛着スタイルが媒介していると仮定し、そのモデルを検討する。すなわち、サイコパス傾向は共感性と愛着スタイルに影響し、他者操作につながると仮定する。

## 方 法

**参加者** 中国語を母語とする20～60代の319名(18～25歳:21.63%, 26～30歳:30.41%, 31～40歳:41.07%, 41～50歳:5.33%, 51～60歳:1.25%, 60歳以上:0.31%)が参加した(男性137人, 女性182人)。実施時期は2019年6月であった。

**手続き** アンケート調査会社(WJX.cn)にアンケート登録し、調査を依頼した。参加者は、任意の参加であることに同意したうえで、オンラインの回答フォーム(WJX.cn)に回答した。指定の人数に達するまで先着順で回答し、参加者には調査会社から報酬としてポイントが付与されるしくみであった。なお本研究は、著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

**質問紙** (1)Dark Triad Dirty Dozen (DTDD; Geng, 2015)からマキャベリアニズム4項目(項目例「私は、あまり自分のあやまちを認めることがない」)、サイコパス傾向4項目(項目例「私は、どちらかというと冷淡で人の気持ちを気にしない」)、ナルシズム4項目(項目例「私は、他の人からの特別な好意を期待しがちだ」)を使用した。「1=全くあては

まらない」～「7=非常にあてはまる」の7件法で回答した(本研究ではサイコパス傾向尺度のみを使用した)。

(2)他者操作方略尺度(寺島・小玉, 2004)を中国語に翻訳し、自己優越的感情操作の4項目(「感心してもらおうとしてひととは違うところをアピールする」)、自己優越的行動操作の5項目(「頼みごとをことわりなくくさせようとして相手への昔の貸しをもちだす」)、自己卑下的感情操作の4項目(「心配してもらおうとしてつらそうなふりをする」)、自己卑下的行動操作の5項目(「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」)を使用した。「1=全くしない」～「5=よくする」の5件法で回答した。

(3)多次元共感性尺度(Multidimensional Empathy Scale, MES; 鈴木・木野, 2008)を中国語に翻訳し、被影響性5項目(項目例「自分の感情はまわりの人に影響を受けやすい」)、他者指向的反応5項目(項目例「悲しんでいる人を見ると、なぐさめてあげたくなる。」)、想像性5項目(項目例「空想することが好きだ」)、視点取得5項目(項目例「常に人の立場に立って、相手を理解するようにしている。」)、自己指向的反応4項目(項目例「他人の成功を素直に喜べないことがある」)を使用した。「1=全く当てはまらない」～「5=すごく当てはまる」の5件法で回答を求めた。

(4)Experiences in Close Relationship Inventory (ECR; Li & Kato, 2006)から親密性回避18項目(項目例「私は恋人に何でも話す」)、見捨てられ不安18項目(項目例「私は見捨てられるのではないかと心配だ」)を使用した。「1=全く当てはまらない」～「5=非常によく当てはまる」の7件法で回答を求めた。

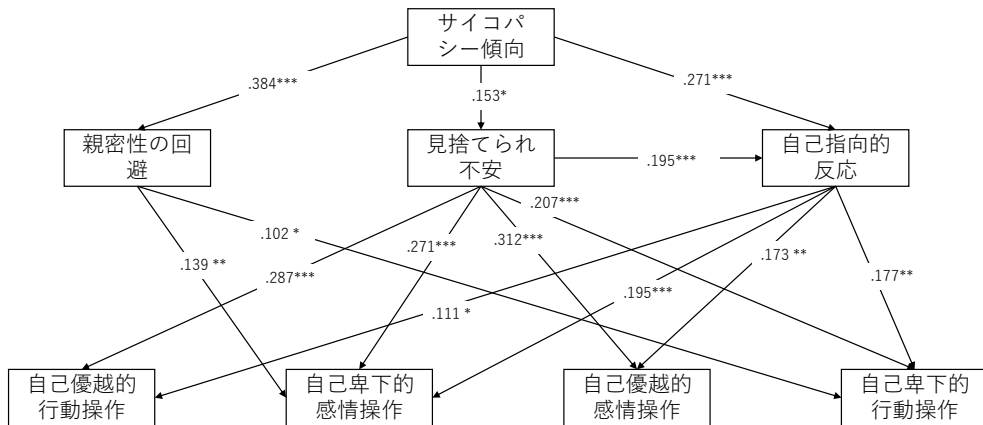
## 結 果

各尺度の $\alpha$ 係数を確認したところ、サイコパス傾向、MESのすべての下位因子、他者操作方略尺度のすべての下位因子で $\alpha < .8$ であった。各尺度間のSpearman順位相関係数を算出した(Table 1)。サイコパス傾向はECRの親密性回避( $r = .364, p < .001$ )と見捨てられ不安( $r = .171, p = .002$ )と正の相関があり、MESの他者指向的反応( $r = -.364, p < .001$ )、視点取得( $r = -.22, p < .001$ )と自己指向的反応( $r = .277, p < .001$ )と有意な相関があった。

Table 1 各尺度の Spearman 順位相関係数 (n = 319)

	$\alpha$	$M$	$SD$	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1. マキヤベリズム	0.804	9.01	4.41													
2. サイコパシー傾向	0.581	9.09	3.75	0.470 ***												
3. ナルシズム	0.785	18.77	4.73	0.341 ***	0.083											
4. 親密性の回避	0.879	52.85	15.60	0.305 ***	0.364 ***	-0.104										
5. 見捨てられ不安	0.862	71.79	17.05	0.248 ***	0.171 **	0.239 ***	0.16 **									
6. 被影響性	0.054	15.95	2.80	0.187 **	0.006	0.299 ***	0.103	0.181 **								
7. 他者指向的反応	0.66	19.45	2.78	-0.213 ***	-0.364 ***	0.159 **	-0.429 ***	-0.068	0.019							
8. 想像性	0.751	18.38	3.50	0.080	0.031	0.371 ***	-0.082	0.063	0.262 ***	0.138 *						
9. 視点取得	0.614	17.24	2.92	-0.090	-0.22 ***	-0.019	-0.262 ***	-0.168 **	-0.118 *	0.273 ***	0.146 **					
10. 自己指向的反応	0.529	13.15	2.66	0.217 ***	0.277 ***	0.31 ***	0.195 ***	0.274 ***	0.205 ***	-0.283 ***	0.252 ***	-0.221 ***				
11. 自己優越的行動操作	0.61	15.15	3.76	0.370 ***	0.195 ***	0.263 ***	0.089	0.296 ***	0.189 **	-0.021	0.131 *	0.035	0.186 **			
12. 自己卑下の行動操作	0.795	13.55	4.54	0.383 ***	0.253 ***	0.242 ***	0.219 ***	0.237 ***	0.182 **	-0.135 *	0.102	-0.082	0.243 ***	0.595 ***		
13. 自己優越的感情操作	0.741	12.17	3.83	0.412 ***	0.224 ***	0.429 ***	0.104	0.333 ***	0.235 ***	-0.001	0.224 ***	-0.103	0.259 ***	0.516 ***	0.528 **	
14. 自己卑下の感情操作	0.735	10.83	3.71	0.327 ***	0.252 **	0.254 ***	0.194 ***	0.33 ***	0.203 ***	-0.133 *	0.128 *	-0.072	0.276 ***	0.475 ***	0.598 ***	0.468 ***

Note. \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$



RMR = 1.130, GFI = .992, AGFI = .961, CFI = .995, RMSEA = .036, AIC = 67.832, CAIC = 206.023  
 \*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

Figure 1 サイコパシー傾向と他者操作方略のモデル

次に、想定したモデルでパス解析を行った。修正指数に従って減らし、適合度を算出した (Figure 1)。適合度は RMR=1.130, GFI=.992, AGFI=.961, CFI=.995, RMSEA=.036 であった。その結果、サイコパシー傾向が高いほど、親密性の回避が高くなり ( $\beta = .384$ )、自己卑下の行動操作 ( $\beta = .102$ ) が高かった。サイコパシー傾向が高いほど、自己指向的反応が高くなり ( $\beta = 0.271$ )、自己優越的行動操作 ( $\beta = .111$ )、自己優越的感情操作 ( $\beta = .173$ )、自己卑下の行動操作 ( $\beta = .177$ )、自己卑下の感情操作 ( $\beta = .195$ ) が高くなっていった。また、サイコパシー傾向が高いほど、見捨てられ不安が高くなり ( $\beta$

$= .153$ )、自己優越的行動操作 ( $\beta = .287$ )、自己優越的感情操作 ( $\beta = .312$ )、自己卑下の行動操作 ( $\beta = .207$ )、自己卑下の感情操作 ( $\beta = .271$ ) が高くなっていった。ちなみに、サイコパシー傾向から他者操作方略の直接パスも消えた。

### 考察

本研究は、サイコパシー傾向と他者操作方略の関連を、共感性と愛着スタイルの影響という観点から検証した。パス解析の結果、サイコパシー傾向は、親密性回避と自己指向的反応を媒介することで、他者操作方略に影響していた。

この結果は、サイコパシー傾向が、他者との安定な愛着関係 (secure attachments) を結ぶことが困難であるという先行研究を裏付けている (Meloy, 2003; Schimmenti et al., 2014)。二次性サイコパシー (大隅ら, 2007) は親密関係の質が悪く (Unrau & Morry, 2017), サイコパシー傾向は不安定な愛着と正の相関がある (Van Der Zouwen, Hoeve, Hendriks, Asscher, & Stams, 2018)。また, サイコパシーの拒絶型愛着 (dismissive attachment) は, 略奪的暴力の起因になる (Meloy, 2002)。本研究の結果においても, サイコパシー傾向と親密性回避, 見捨てられ不安との間に正の関連があった。サイコパシー傾向の愛着問題は, 暴力行為や反社会的行動の原因の1つであると考えられる。

パス解析の結果から, 親密性回避が高いほど, 卑下的操作を行うことが明らかになった。サイコパシー傾向はすべての他者操作方略と有意な相関があるが (下司・小塩, 2019), 特に親密性回避が高くなることで, 自己卑下的操作につながると考えられる。これは, 卑下的操作 (例「相手に仕事を代わってもらおうとして調子悪そうなふりをする」) が, 他者との関わりが少ない状況で行いやすいからかもしれない。

また, 自己指向的反応が高くなることで, すべての他者操作方略が高くなっていった。自己指向的反応 (例「他人の失敗する姿を見ると, 自分はそうなりたくないと思う」「他人の成功を見聞きしているうちに, 焦りを感じる人が多い」) は, 共感性のネガティブな側面と考えられる。実質的には, 自己中心的な状態と想定できるだろう (浜崎, 1985; 永井, 2019)。

そして, 本研究はサイコパシー傾向が高い者は, 見捨てられ不安が高まると, 他者操作を促進する結果を得られた。永井 (2019) によると, 見捨てられ不安は, MESの個人的苦痛を媒介して, 利他的行為を低下させる。個人的苦痛も共感性のネガティブな側面であると考えられる。本研究の結果は, 不安定な愛着がそれを媒介して, 他者操作につながることを裏付けている。

本研究の課題は, DTDDのマキャベリズムとナルシズムについて検討していない点である。これに関連して, 愛着不安が恋愛関係における間接的暴力加害を増大させるという報告がある (金政・荒井, 2018)。マキャベリズムと他者操作方略についても, 今

後の検証する必要があるだろう。

## 引用文献

- Clair, H. R. S. (1966). Manipulation. *Comprehensive Psychiatry*, 7, 248-258.
- GENG Yao-guo, SUN Qun-bo, HUANG Jing-yi, ZHU Yuan-zheng, HAN Xiao-hong (2015). Dirty dozen and short dark triad: A Chinese validation of two brief measures of the dark triad. *Chinese Journal of Clinical Psychology*, 23, 246-250.
- 浜崎隆司 (1985). 幼児の向社会的行動におよぼす共感性と他者存在の効果 心理学研究, 56, 103-106.
- Hare, R. D., & Neumann, C. S. (2009). Psychopathy: Assessment and forensic implications. *The Canadian Journal of Psychiatry*, 54, 791-802.
- 黄 (未発表).
- Jonason, P. K., & Krause, L. (2013). The emotional deficits associated with the Dark Triad traits: Cognitive empathy, affective empathy, and alexithymia. *Personality and Individual Differences*, 55, 532-537.
- 金政祐司・荒井崇史 (2018). パーソナリティと関係性が恋愛関係の間接的暴力に及ぼす影響 日本心理学会大会発表論文集, 82, 123.
- 木川智美 (2016). 他者を操作することの心理学的研究の動向と展望 *Japanese Psychological Review*, 59, 387-396.
- Li-Tonggui, K. K. (2006). Measuring adult attachment: Chinese adaptation of the ECR scale. *Acta Psychologica Sinica*, 38, 399-406.
- Meloy, J. R. (2003). Pathologies of attachment, violence, and criminality. *Handbook of psychology: Forensic psychology*, 11, 509-526.
- Meloy, J. R. (2002). The "polymorphously perverse" psychopath: Understanding a strong empirical relationship. *Bulletin of the Menninger Clinic*, 66, 273-89.
- 永井智 (2019). 成人の愛着と利他的行動の関連における共感性の媒介効果 パーソナリティ研究, 28, 253-255.
- 大隅尚広・金山範明・杉浦義典・大平英樹 (2007). 日本語版一次性・二次性サイコパシー尺度の信頼性と妥当性の検討 パーソナリティ研究, 16, 117-120.
- Paulhus, D. L., & Williams, K. M. (2002). The dark triad of personality: Narcissism, machiavellianism, and psychopathy. *Journal of Research in Personality*, 36, 556-563.
- Schimmenti, A., Passanisi, A., Pace, U., Manzella, S., Di

- Carlo, G., & Caretti, V. (2014). The relationship between attachment and psychopathy: A study with a sample of violent offenders. *Current Psychology*, 33, 256-270.
- 下司忠大・小塩真司 (2019). Dark Triad と他者操作方略との関連 パーソナリティ研究, 28, 119-127.
- 鈴木有美・木野和代 (2008). 多次元共感性尺度 (MES) の作成 教育心理学研究, 56, 487-497.
- 寺島瞳・小玉正博 (2004). 他者操作方略尺度作成の試み 筑波大学心理学研究, 28, 89-95.
- Unrau, A. M., & Morry, M. M. (2019). The subclinical psychopath in love: mediating effects of attachment styles. *Journal of Social and Personal Relationships*, 36, 421-449.
- Van Der Zouwen, M., Hoeve, M., Hendriks, A. M., Asscher, J. J., & Stams, G. J. J. (2018). The association between attachment and psychopathic traits. *Aggression and Violent Behavior*, 43, 45-55.
- Williams, K. M., Paulhus, D. L., & Hare, R. D. (2007). Capturing the four-factor structure of psychopathy in college students via self-report. *Journal of Personality Assessment*, 88, 205-219.

#### 付記

本研究は著者の所属する部署の倫理審査を受け、承認を得た。

#### 謝辞

本研究にご協力いただいた参加者のみなさまにお礼申し上げます。

#### 利益相反

著者がいかなる利益相反もないことを表明する。

#### 著者分担

第1著者が本研究を発案し、データ分析、草案作成を行った。第2著者は研究デザインと分析計画に助言を行い、草稿の修正を行った。最終稿は2人で確認した。

#### 著者紹介

黄 夢荷 関西大学心理学研究科 D4。2017年3月関西大学大学院心理学研究科前期課程修了、修士(心理学)。博士後期課程に進学し、今に至る。  
串崎真志 関西大学文学部教授。

Correspondence concerning to this article should be addressed to Ms.HUANG at k953279@kansai-u.ac.jp

#### 要 旨

サイコパシーは、反社会的な特性と行動を含むパーソナリティ障害であり (Hare & Neumann, 2009)、他者を操作する特徴がある。先行研究では、サイコパシー傾向は他者操作方略と正の相関がある (下司・小塩, 2019)。本研究は、サイコパシー傾向と他者操作方略の関連を、共感性と愛着スタイルの影響という観点から検証した。中国で参加者 319 名の調査を行った結果、サイコパシー傾向と親密性回避、見捨てられ不安との間に正の相関が得られた。また、パス解析の結果から、サイコパシー傾向の自己指向的反応が高くなることで、すべての他者操作方略が高くなること、親密性回避が高いほど、卑下的操作を行うことも明らかになった。

キーワード：サイコパシー傾向、他者操作方略、愛着、共感

